

日本は19世紀の後半から20世紀の初頭にかけて急速な産業化を実現し、産業国家の土台を構築しました。日本の重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）の産業化の歩みを証する全国23の遺産群のうち、芝山では製鉄・製鋼に関する資産が立地しています。

国内で唯一稼働した現存の反射炉

芝山反射炉

1850年代、海軍のために鉄砲大砲を製造しようとしたラングドシャー少将ヒーゲンの着手した技術を元に国内各地に建設された金属溶解炉の一一つで、実際に稼働したことで確認されています。重い反射炉の構造は、石炭のみの基礎の上に耐火煉瓦で作られた複数の炉体と4本の支柱で支えられています。

表面E-2

地図

QRコード

QRコード